

生物多様性保全に係る武蔵台緑地生態および修景管理業務委託
年間作業報告書

令和7(2025)年度



クヌギ



コナラ



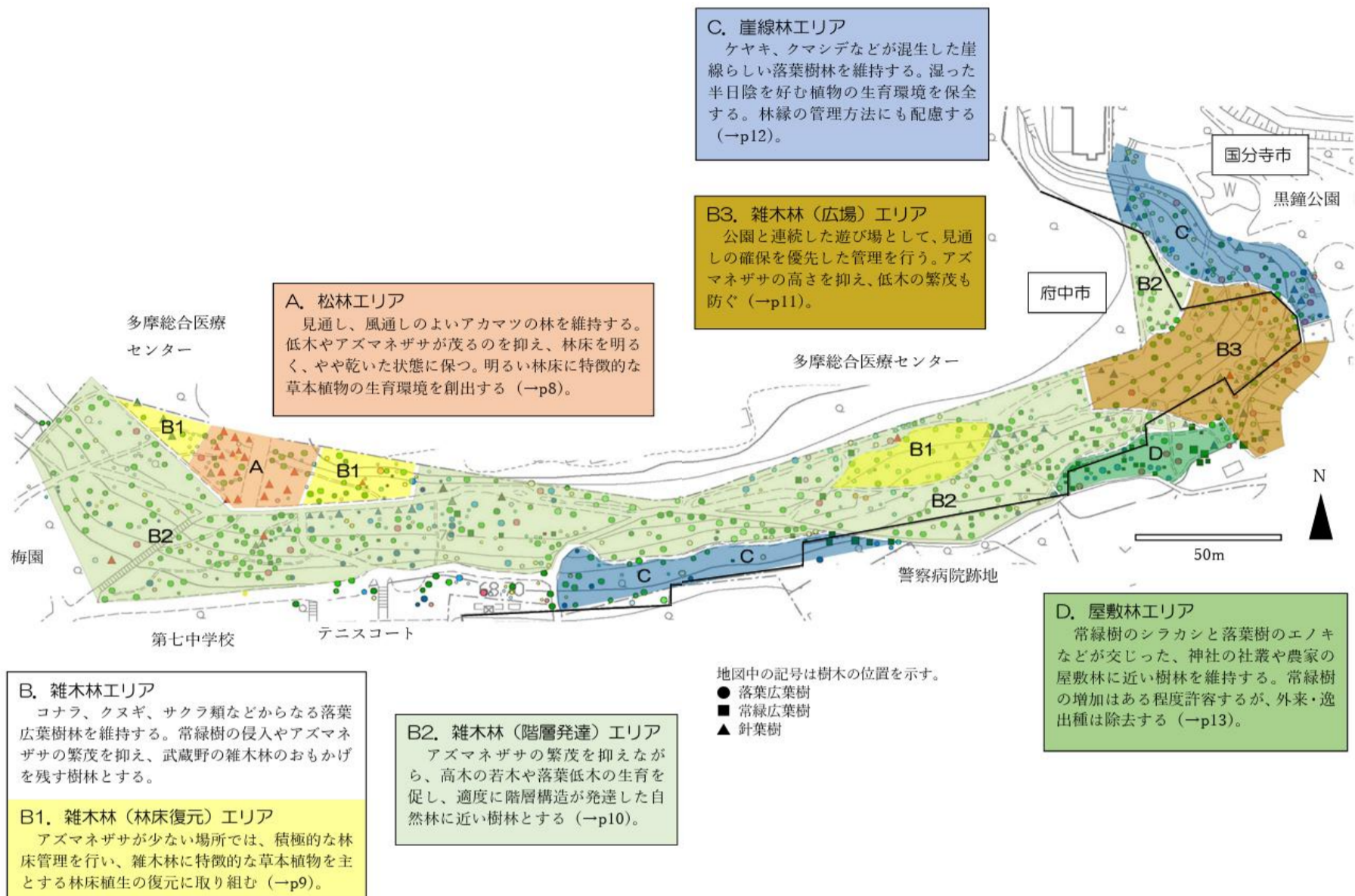
* 『市民協働による生物多様性保全のための武蔵台緑地植生管理ガイドライン』
(2020年 府中市役所生活環境部環境政策課 発行)の方針を踏まえた管理をしています。
ガイドラインおよび過去の報告書は東京都府中市ホームページ内公園緑地課のページで、
見ることができます。

■ 武蔵台緑地とは

府中市北西部の国分寺崖線の斜面に帯状に残された樹林です。

府中市内の樹林としては浅間山に次ぐ規模をもっています。

東側に隣接する国分寺市の黒鐘公園や伝鎌倉街道沿い樹林とともに、この地域本来の自然環境を残す貴重な緑地です。



* 『市民協働による生物多様性保全のための武蔵台緑地植生管理ガイドライン』（2020年 府中市役所生活環境部環境政策課 発行）より引用

目次

- ① ササ類の除去
- ② 判別調査・選択除草
- ③ 剪定・枯損木伐採
- ④ 常緑樹の選択的除草
- ⑤ 定期巡回・点検
- ⑥ 自然災害・点検
- ⑦ ボランティアとの協働
- ⑧ バイオネストの維持管理
- ⑨ 意見交換会への参加
- ⑩ 情報共有

① ササ類の除去

明確な植生管理目標ができる前はササ類の繁茂が激しく、一部では背丈を越すまでに育って林内はうっそうとしていました。このような場所では若い木が育たなくなるばかりでなく、林内に生育する低木や草本も消失して生物多様性が著しく低下します。

そこで植生管理ガイドラインでは、ササ類の繁茂を抑えることがすべてのエリアで重要な管理作業と位置づけられました。令和4年度からササ類の除去が実施されています。

令和4年度 鳥類保全ゾーン等を除く緑地内の全域で、ササ類を地際から刈り取りました。その結果、林内に陽射しが入るようになり、見通しの悪さも改善されました。

令和5年度 ササは再び伸びてきましたが、密度や高さは以前よりも低い状態でした。「植生管理ガイドライン」で示されたエリアごとの目標とする高さの目安を参考にササ刈りを実施しました。

令和6年度 前年度と同様、エリアごとに目標の高さになるようにササ刈りを実施しました。また、ササ刈り後に伸びた稈が歩道に倒れ込んでくるのを防ぐため通路脇ではより低く刈り込みました。

令和7年度 前年度と同様、エリアごとに目標の高さになるようにササ刈りを実施しました。

■ササ類を選択的に刈り取るエリア



作業前



作業後

■ササ類が腰丈を超えたら刈るエリア



作業前



作業後

② 判別調査・選択除草

緑地内には、本来この場所には自生しない外来種や栽培種も多く見受けられます。外来種を判別して、選択的に除去します。

街路樹や庭木の実を食べた鳥などによって持ち込まれるほか、私的に植栽されたり投棄された培養土から根付いたり、侵入経路はさまざまです。

外来種は繁殖力が強いので、もともと緑地にあった在来植物の生育場所を奪ってしまうこともあります。これらの植物を除去することにより、緑地本来の姿を取り戻すことを目指しています。

希少植物の周囲では、覆いかぶさるつる植物など生育に悪影響を及ぼす植物を選択的に除去し、希少植物の良好な生育環境の確保に努めています。



外来種であるハルジオンで覆われた地面



根から抜き取ります
ハルジオン 原産：北アメリカ

緑地内で見られる外来種（一部）



セリバヒエンソウ
原産：中国

ヒメオドリコソウ
原産：ヨーロッパ



オオアマナ
原産：ヨーロッパ 球根で増えます



アレチヌスビトハギ
原産：北アメリカ

③ 剪定・枯損木伐採

「ナラ枯れ」した樹木の伐採

「ナラ枯れ」によりクヌギ・コナラの大径木を中心に枯損が拡大しています。

落枝や倒伏のおそれがあるため、緑地内の安全確保のため、伐採を実施しました。

*ナラ枯れとは…

菌（カビ）によって感染木が急激に枯死する病気のこと。

クヌギやコナラなどのナラ類の樹木が感染すると、梅雨明け直後から枯れ始めます。

多摩地域では令和2年頃から被害が拡大しており、武蔵台緑地でも大径木が枯れる被害が続いています。



作業前



作業後



ロープワークを駆使して、安全に枝をおろします



伐採木の切株
ナラ枯れの原因となる菌を運ぶ虫が掘り進んだ穴

枯枝の剪定

落枝の防止のため、枯れた枝を剪定しました。



作業前



作業後

④ 常緑樹の選択的除去

冬に葉が落ちることなく、一年中緑色の葉がついている樹木を常緑樹といいます。常緑樹の下は濃い日陰になります。常緑樹が増加すると林内が暗くなり落葉樹の若木や草本が生育しにくくなるため、これらを取り除くことにより在来の落葉低木の生育を促すとともに、多様な草本種が生育できる環境を維持します。



伐採 作業前 地面に届く光の量が少ない



伐採 作業後 明るくなり地面に届く光の量も増えました

植生管理マニュアルをチェック

人の手が加わらなくなった雑木林や松林が常緑樹林に遷移していくこと自体は、自然に起こる現象です。しかし、武蔵台緑地にみられる常緑樹は、シラカシなど一部を除いて、ほとんどは栽培品が逸出（いっしゅつ）したものです。

そのため、放置するこれらがシラカシなどに代わって優勢になり、本来この地域にあるべき常緑林とはかけ離れた姿になってしまうおそれがあります。

*逸出（いっしゅつ）とは…植物の場合、栽培している植物が管理下から外れて野生化すること。

植栽されたヒイラギナンテンが繁茂した例



作業前



作業後

⑤ 定期巡回・点検

⑥ 自然災害・点検

定期的に緑地内を巡回し、投棄物の回収、施設の破損、通行支障、危険木の有無の確認をしています。
今後、危険が生じると判断される木についてはあらかじめ伐採や切り戻し剪定を実施することにより、事故を未然に防ぎます。

また定期巡回とは別に、強風や降雪があった際には緑地を巡回し、落枝や倒木がないかを確認しています。

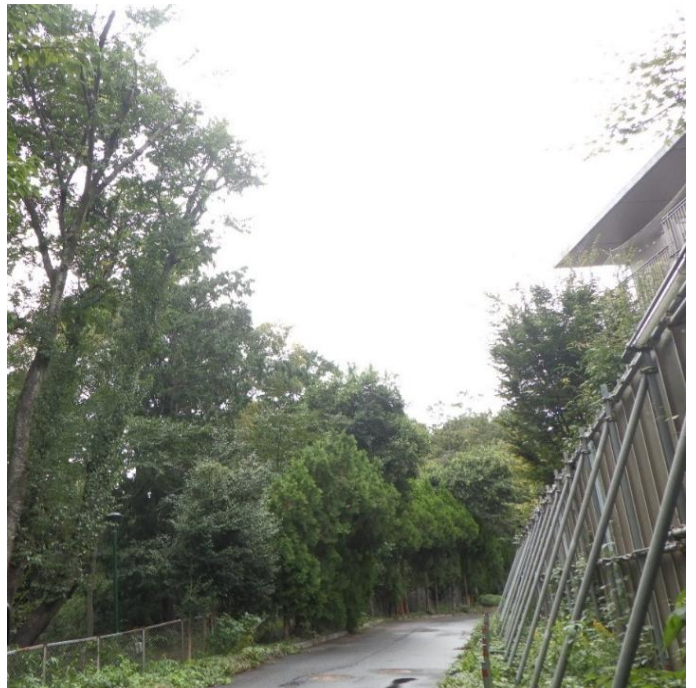
通行支障物の撤去

かつてこの緑地が密生したササに覆われていたころは、不法投棄も多かったと聞きます。
地表面が削られたことにより、土中に埋もれていたコンクリート製の水受けやガラが地表面に出てきました。
通行時のつまづき防止のため、これらを撤去しました。



支障枝の剪定

敷地外へと越境しており、強風時に折損のおそれがある枝を剪定しました。



⑦ ボランティアとの協働

武蔵台緑地保全ボランティアとの協働

緑地整備活動と一緒に取り組みながら、手入れの内容や方法についての助言をしています。また、ボランティア団体が携わった武蔵台小学校5年生の環境学習支援において、現地を散策しながら武蔵台緑地の植生の特徴や樹木の特徴について解説しました。これらを踏まえて児童さんたちが作成した環境保全啓発の看板を、後日、緑地内にみんなで設置しました。



覆い被さるササ類やつる植物、そして上から大量に降ってくる落ち葉に埋もれかかっていたシュンランも、手入れをしたことでたくさんの花が咲きました。



設置された看板の例



繁茂してしまった栽培植物の除去も体験しました

府中市環境調査員会議との協働 自然環境調査（植物班）

毎月1回開催される自然環境調査（植物班）に同行し、植物の種類・生育場所などについて調査をしています。調査日以外に見つけた植物や鳥類、昆虫の生育場所や状況等については随時、情報提供しています

毎月1回の調査では、植物の生育状況（つぼみ・花・果実）を記録しています。



ムラサキシキブ つぼみ



ムラサキシキブ 花



(参考) ムラサキシキブ 葉が開く様子



ムラサキシキブ 果実

⑧ バイオネストの維持管理

緑地内の手入れをした際に出た草や枝葉は「バイオネスト」に投入して、緑地内で自然に還しています。

「バイオネスト」は緑地内に4つ。点在させてあり、手入れをした場所に近いバイオネストを利用しています。枝は周囲に組み上げて枠とします。葉や草は枠内で刻んで分解を促しています。



⑨ 意見交換会への参加

「第3次府中市環境基本計画」重点プロジェクトに基づき、緑地保全の方向性や取り組みに関する多様な主体による意見交換会が開催される場合には、会議に参加して保全作業の実績や緑地に関する所感等を報告します。

月に1回開催される自然環境調査や年に6回開催される府中市環境調査員会議の定例会では、植物班・鳥類班・昆虫班とも意見を交換しています。鳥類や昆虫がエサや隠れ場所として利用する植物との関わりなどについて話が及びます。

⑩ 情報共有 1 緑地内で生育する植物

緑地内の植物の生育状況や生育場所を記録しています。

これらの情報は府中市やボランティア団体に共有するほか、名札の掲示などで緑地利用者にも共有しています。

<東京都と環境省共通のカテゴリー> 一部抜粋

危絶 惧滅 種	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧ⅠA類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類(EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧(NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

「東京都レッドデータブック（本土部）2023」に掲載されている植物 …武蔵台緑地は、北多摩エリアに属します。

絶滅危惧ⅠB類(EN)



ギンラン 4月（撮影時期）

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



クチナグサ 花 4月



クチナグサ 4月 実

クチナグサは今年度初めて見つけられました。



ホソバヒカゲスゲ 4月



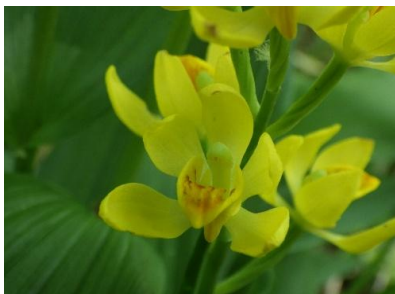
キツネノカミソリ 8月



マキエハギ 9月

不明だった生育場所が再発見されました

準絶滅危惧(NT)



キンラン



キンラン 4月

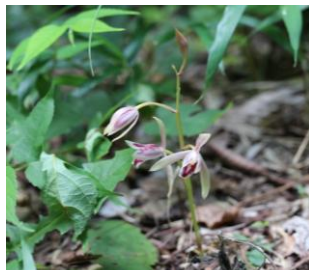


ササバギンラン 4月

指定なし



フデリンドウ 4月



マヤラン 7月



コウヤボウキ 11月



ヒメヤブラン 7月

生育場所が再発見されました

参考情報 動物の観察

緑地内を巡回しているとさまざまな鳥や虫にも出会います。これらの情報は市役所、武蔵台緑地保全ボランティア、府中市自然環境調査員会議などに情報共有します。

今年度は実験的に自動撮影カメラを設置して、小動物がこの緑地を利用しているのかを観察しました。動物が掘ったと思われる痕跡はごくたまに見つかりましたが、植物をかじった痕跡などを見かけることはほとんどありませんでした。カメラの記録を確認したところ、多くの小動物が緑地を通過していることがわかりました。



アナグマ 8月
穴に頭を入れていましたが、入ることはありませんでした



キツネ 12月
府中市では川から離れたところではあまり見られないそう



タヌキ 10月
次々と現れ、7頭が通過していきました



ネズミ 10月
木に登る姿を見ることができました

アライグマとハクビシンは外来生物です。
アライグマは生態系などに被害を及ぼすものとして特定外来生物に指定されています。



アライグマ 6月
カメラをのぞき込んだりにおいを嗅いだりする様子もみられました



ハクビシン 6月
他の動物と異なりフェンスはくぐらず、乗り越えていました